わたしの中にあるふるさと㉚

人生で大事なことはプールから学んだ

街中でプール用のバッグを提げた子どもたちを見ると、
わたしには思い出す古い記憶がある。
廿日市にあった遊園地「ナタリー」での出来事だ。
「ナタリー、懐かしいね」という広島県民は多いと思う。
ナタリーには当時としては珍しい波の出るプールがあった。
小学校低学年だったわたしも喜び勇んで飛び込んだところ、
ワーッと波にさらわれてしまったのである。

無我夢中でもがき、なんとかプールサイドに上がったわたしは、
鼻水と涙でグチャグチャになりながら両親を探した。
周りには「何この子」というような世間の目があった。
「うっ、うっ」としゃくりあげながらも、
「たくましく生きていこう」と子ども心に誓った夏の午後だった。

学校の授業でプールがある日は、別の意味で憂鬱だった。
着替えるときバスタオルを横から取る悪い同級生がいたのである。
そこで、全裸を見られることを回避するために、
パンツの上から水着をはき、
片足ずつ器用にパンツを脱いでいく技が、男子の間に広がった。
今はもうこんなことをする小学生はいないだろう。
着替え用のラップタオルという便利なものもあるようだ。

そんなわけで、わたしはいまだにプールが苦手である。
しかし、区のスポーツセンターなどでプールを見かけると、
「ちょっと楽しそうだな」と思わないでもない。
泳がずにウォーキングしている人もいたりして、
「そういう利用の仕方もいいな」と少し心が動く。
何よりも、あの独特の塩素のにおいに、
不思議なノスタルジーを感じているのだと思う。

三条の谷間に沿って「ぜにがめごうろ」「なかごうろ」「おおごうろ」があり、観察コースが設定されている

■いきいきタウン、ふるさと発見記

かつて大きな牛馬市が立った、岩海の町

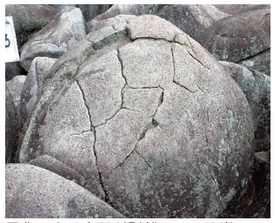
久井町（三原市）

地球の神秘に触れる、価値ある自然遺産「久井岩海」

JR三原駅から車で北へ30分ほど、豊かな水田となだらかな山々に囲まれた久井に到着します。歴史と自然に彩られたこの町は、備南最高峰の宇根山（標高約699メートル）に広がる国指定天然記念物「久井岩海」で知られています。岩海は別名を「ごうろ」といい、文字通りゴロゴロと岩が折り重なる様子は圧巻の一言です。直径1～7メートルの巨岩が三条の谷間に沿って川のように延びており、その広さは22ヘクタール、マツダスタジアムの約4倍。近い将来には周辺整備も充実する予定です。

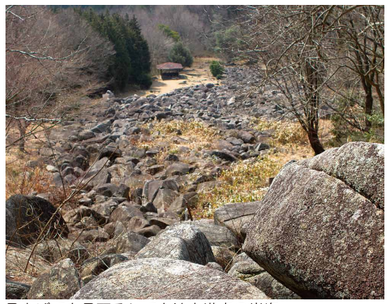
現地で元三原市文化財保護審議会委員の岡田清孝さんが迎えてくれました。「これらは8600万年前にできた花崗閃緑岩です。それは数十万年単位の時をかけて風化していったと考えられます。太陽や空気、水などの気温の変化によって角が取れたり剥がれたりして徐々に壊れていったわけで、このまま長い時間がたてばいずれはマサ土になります。風化による岩海は日本ではここだけの学術上貴重なものです」。

あらためて岩を見てみると、確かにタマネギの皮が剥がれるように風化が進んでいます。さらに「水音峡」と呼ばれるポイントに案内してもらうと、水の流れる音が聞こえてきました。岩海の6～7メートル下に水が流れており、それが岩に反響して聞こえてくるのです。



風化により表面が剥離している岩

中学で理科を教え、小学校長も務めた岡田清孝さん



見上げても見下ろしても迫力満点の岩海